解剖学各論Ⅰ

科目責任者　徳　田　信　子
学年・学期　２学年・１学期

Ⅰ．前　　文

解剖学実習に先行し，人体の構造と機能を学習します。発生学的な観点からも知識を深め，人体を総合的に理解できるようにしてください。ディプロマ・ポリシー「医学知識　１．人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。」の基礎を形成して頂きます。また，ディプロマ・ポリシー「リサーチ・マインド１．最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。２．自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。」を目指した講義も準備しています。

Ⅱ．担当教員

教　　授	徳田信子	解剖学
准教授	上田祐司	解剖学
准教授	江原鮎香	解剖学
講　　師	山口　剛	解剖学
学内講師	橋　篤導	解剖学
助　　教	北沢祐介	解剖学
助　　教	沢登祥史	解剖学
教　　授	入澤篤志	内科学（消化器）
教　　授	志水太郎	総合診療医学
非常勤講師	河本　宏	京都大学 医生物学研究所・所長

Ⅲ．一般学習目標

人体の構造と機能の全体像をとらえ，各器官の肉眼的構造と機能を理解する。また，解剖学の臨床的な重要性を認識し，能動的学習の習慣を身につける。

Ⅳ．学修の到達目標

１）皮膚の構造と主な機能を説明できる。
２）心・血管系の構造と主な機能を説明できる。
３）リンパ・免疫系の構造と主な機能を説明できる。
４）肺・気道系の構造と主な機能を説明できる。
５）消化管・肝胆膵の構造と主な機能を説明できる。
６）腎・尿路系の構造と主な機能を説明できる。
７）男性生殖器系の構造と主な機能を説明できる。
８）女性生殖器系の構造と主な機能を説明できる。
９）血液・造血器の構造と主な機能を説明できる
10）頭頸部の構造を説明できる。
11）感覚器の肉眼的構造を説明できる。
12）上肢・下肢の構造を説明できる。
13）胸部・腹部・骨盤の構造を説明できる。
14）背面の構造を説明できる。

15）人体の構造を発生学的に説明できる。

16）解剖学用語（日本語・英語）を理解し説明することができる。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション，ディベート　3：グループワーク　4：実習，フィールドワーク　5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	4	1	月	3	浅層の構造1	徳　田　信　子	1
2		2	火	1	浅層の構造2	徳　田　信　子	1
3		2	火	2	背面の構造	徳　田　信　子	1
4		2	火	3	上肢と腕神経叢	上　田　祐　司	1
5		5	金	3	下肢と腰仙骨神経叢1	上　田　祐　司	1
6		5	金	4	下肢と腰仙骨神経叢2	上　田　祐　司	1
7		8	月	1	特別講義：総合診療からの胸腹部解剖-1	志　水　太　郎	1
8		8	月	2	特別講義：総合診療からの胸腹部解剖-2	志　水　太　郎	1
9		9	火	1	胸部1（呼吸器系の発生含む）	徳　田　信　子	1
10		9	火	2	胸部2	徳　田　信　子	1
11		11	木	1	胸部3（循環器の発生）	徳　田　信　子	1
12		11	木	2	胸部と腹部	徳　田　信　子	1
13		15	月	1	特別講義：解剖学をマスターすることは「できる臨床医」への第一歩	入　澤　篤　志	1
14		15	月	2	腹部1	徳　田　信　子	1
15		16	火	1	腹部2（消化管の発生）	徳　田　信　子	1
16		16	火	2	腹部3（肝臓・胆道系・膵臓その発生）	徳　田　信　子	1
		30	火	1-2	中間試験	全　　員	
17	5	10	金	1	骨盤1（発生含む）	上　田　祐　司	1
18		10	金	2	骨盤2（発生含む）	上　田　祐　司	1
19		17	金	1	血液・脾臓	上　田　祐　司	1
20		17	金	2	造血・骨髄	上　田　祐　司	1
21	6	11	火	1	頭頸部1（頭部の構造と脳神経）	徳　田　信　子	1
22		11	火	2	頭頸部2（脳神経と咽頭弓）	徳　田　信　子	1

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
23	6	24	月	1	特別講義：再生医療と免疫-1	河　本　　宏	1
24		24	月	2	特別講義：再生医療と免疫-2	河　本　　宏	1

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（95%），ミニテストや提出物など（５％）により，総合的に評価する。

なお，定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅱ」の評価として集計される。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り，ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

1）教科書：グレイ解剖学，エルゼビア

2）教科書：プロメテウス解剖学　解剖学総論／運動器系，医学書院

3）図譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院

4）図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂

Ⅷ. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学講座図書集会室（133室）

Ⅸ．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について，間違いや誤解が多い点を随時解説します。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

予習すべき内容をe-learningや動画などの形式で示すので，必ず取り組んでください。（15分）この内容に関するミニテストを行い，結果は総合成績に反映させます。また，予習用に示されたe-learningや動画については，講義後の復習用にも用いてください。（10分）予習・復習教材と，１年時からの講義で配布されたハンドアウトをもとに，要点を説明できるようにしておくことが大切です。

Ⅻ．コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。